

(5) 東海



東海地域では、景気は悪化している。

- ・ 鉱工業生産は下げ止まりの兆しがみられる。
- ・ 個人消費は緩やかに減少している。
- ・ 雇用情勢は極めて急速に悪化している。

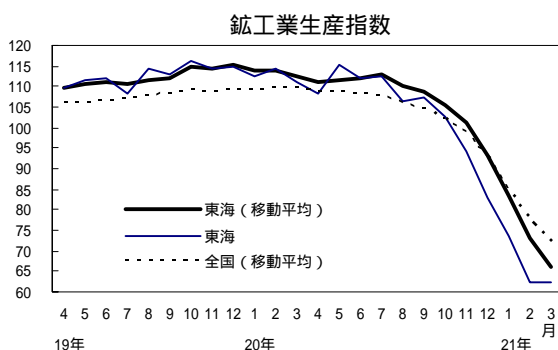
前回調査からの主要変更点

	前回（平成21年2月）	今回（平成21年5月）	
景況判断	極めて急速に悪化	悪化	
鉱工業生産	極めて大幅に減少	下げ止まりの兆しがみられる	
住宅建設	減少	大幅に減少	
雇用情勢	極めて急速に悪化しつつある	極めて急速に悪化	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は下げ止まりの兆しがみられる。

輸送機械は、自動車部品や乗用車を中心に、大幅に減少しているものの、3月は在庫調整の進展により上昇している。一般機械は、金属工作機械を中心に、大幅に減少している。電子部品・デバイス、半導体やテレビ向け液晶素子を中心に大幅に減少しているものの、在庫調整等により、2、3月は上昇している。プラスチック製品は、工業用製品を中心に、大幅に減少している。化学は、プラスチックを中心に減少しているものの、中国市場における需要回復により、3月は上昇している。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		10~12 月期	1~3 月期	1~3 月期	1~3 月期
輸送機械	37.5	18.5	36.3	36.0	36.5
一般機械	12.7	15.7	31.2	31.9	2.7
電子部品・デバイス	6.8	18.6	27.5	30.4	15.8
プラスチック製品	5.4	12.0	23.4	23.8	6.8
化学	5.0	4.6	8.5	7.6	0.3
鉱工業	100.0	14.3	29.1	28.8	6.3

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。

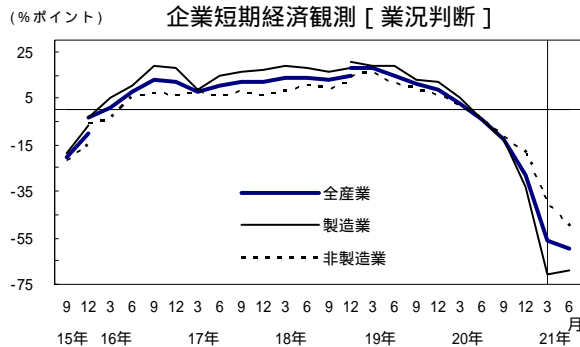
2. 生産指数は東海。出荷、在庫指数は中部。

(備考) 1. 17年 = 100、季節調整値。

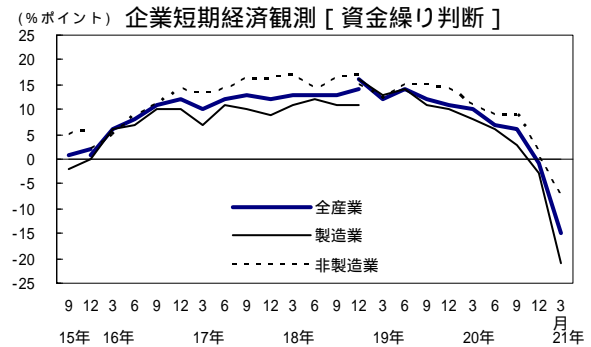
2. 全国及び東海の太線は後方3か月移動平均。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「苦しい」超幅がそれぞれ拡大している。

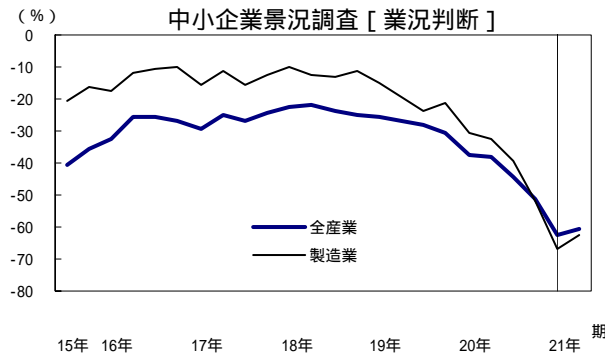
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。21年6月は予測。
15年12月および18年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
15年12月および18年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。21年 期は見通し。
中部地区。

景気ウォッチャー調査(4月)[企業動向関連(現状)]

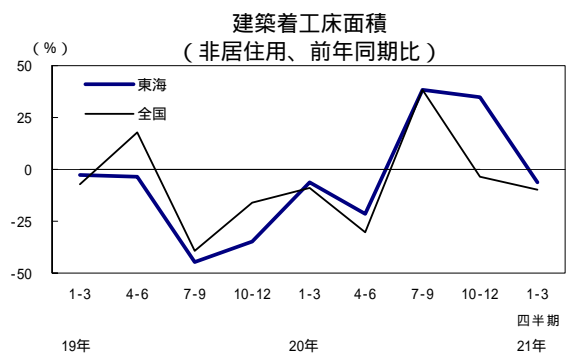
「地元には大手自動車メーカーの下請企業が多いが、減産は徐々に解消しつつある。しかし、以前の受注量にはほど遠い。また、建設業者では、4、5月の受注が大幅に減っている。内装工事の下請業者では、5月まで仕事はほとんどない様子である(会計事務所)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 20年度の設備投資は前年度とほぼ同水準の見込みとなっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(3月調査)]

	(前年度比、%)	
	20年度実績見込み	21年度概
全産業	1.4 [1.2]	4.4
製造業	4.7 [1.8]	7.2
非製造業	3.9 [0.1]	0.0

(備考)[]は前回(12月)調査結果。



2. 需要の動向

(1) 個人消費は緩やかに減少している。

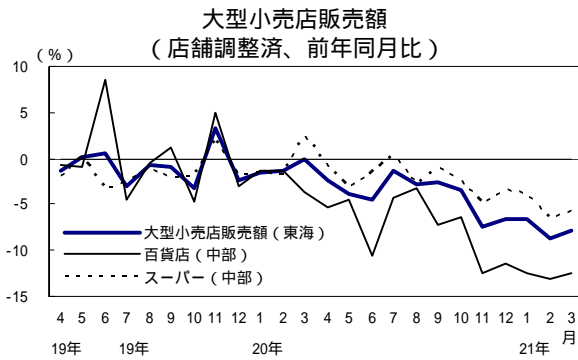
大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、1月は、おせち、惣菜が不調で飲食料品が前年割れしたほか、福袋、正月セールが長続きせず、全体で前年を下回った。2月は、飲食料品は、惣菜、バレンタイン商戦が不調で前年割れしたほか、衣料品も最終処分セールが持続せず前年を下回った。3月は、飲食料品は、惣菜、ホワイトデー商戦が不調で前年割れしたほか、衣料品も天候不順と低価格志向で振るわず、前年を下回った。なお、日本百貨店協会によると、名古屋地区の4月の売上高は、前年同月比で13.8%減となっている。

スーパーは、飲食料品が堅調に推移したものの、衣料品が不調で、全体では前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(4月)[家計動向関連(現状)]

「顧客の関心は、相変わらず価格に向いている。購買客数と購買点数の減少を、低価格商品でカバーしようとして取り組んでいるが、売上増には結び付いておらず、売上は低迷している(百貨店)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

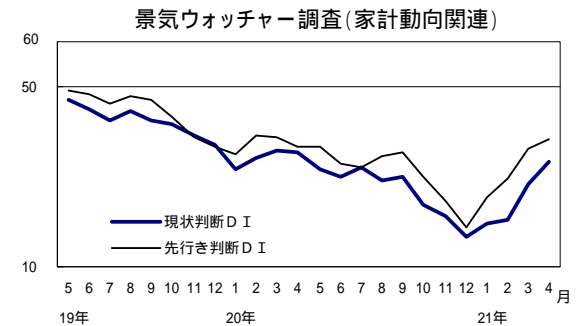
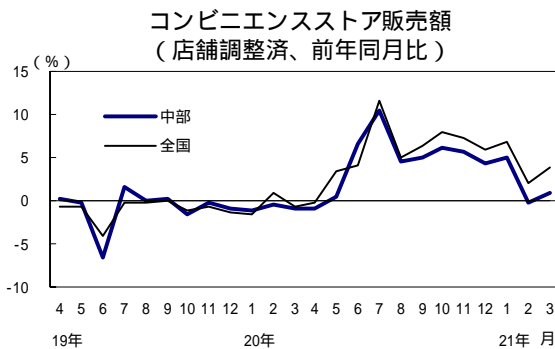


	(前年同期比、%)			
	20年4-6月	7-9月	10-12月	21年1-3月
大型小売店	3.5	2.3	5.9	7.5
百貨店	6.9	4.9	10.4	12.6
スーパー	1.9	1.3	3.6	5.2
コンビニ	2.1	6.7	5.4	1.9
景気ウォッチャー	32.4	30.5	20.5	22.8

(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。

百貨店、スーパー、コンビニは中部地区。

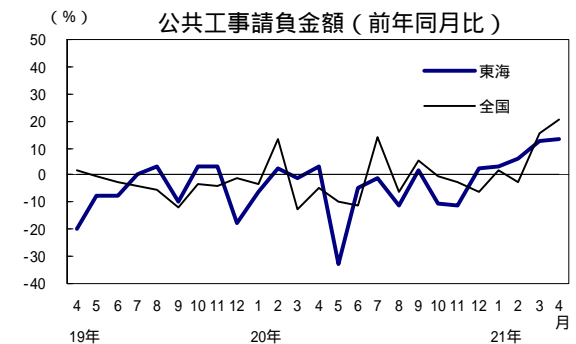
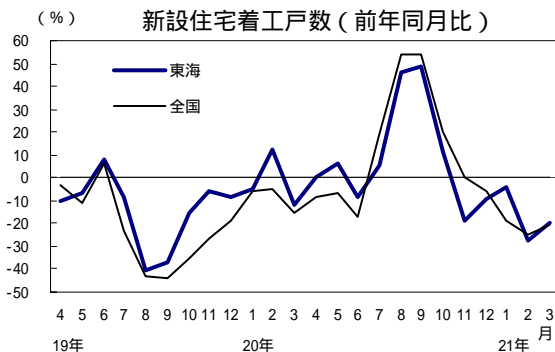
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断D Iの3か月平均。



(2) 住宅建設は大幅に減少している。

持家、貸家、分譲が前年を下回ったことから、全体でも大幅に減少している。

(3) 公共投資は20年度累計で見ると前年度とほぼ同水準となっている。

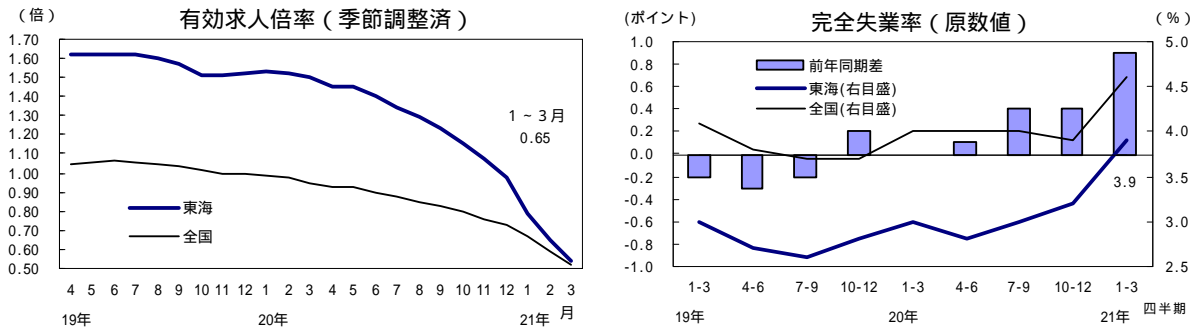


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は極めて急速に悪化している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は大きく低下している。完全失業率は前年同期を上回っている。



景気ウォッチャー調査 (4月)[雇用関連(現状)]

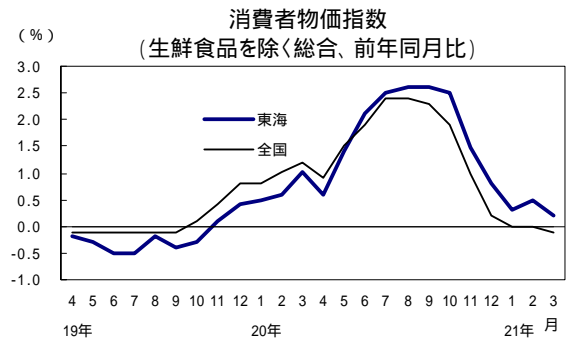
「中途採用の一般求人広告件数は、引き続き減少している。特に製造業の募集が止まっている。1998年や2002年の水準を下回るほどの激減である(新聞社[求人広告])」など、「悪くなっている」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数は増加、負債総額は大幅に増加している。

(3) 消費者物価指数は前年比の上昇幅が縮小している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	20年4-6月	7-9月	10-12月	21年1-3月	21年4月
倒産件数	332	345	343	414	108
(前年比)	8.1	1.1	3.3	20.7	16.1
負債総額	1,359	744	1,367	2,310	959
(前年比)	80.0	62.6	82.2	128.3	143.2



景気ウォッチャー調査 (4月)[合計(特徴的な判断理由)]

<現状>

・2月が底であり、それに比べると、4、5月の売上は2～3割ほど増えている。ただし、絶好調時の売上と比べると、5～6割ほど減っている(輸送機械器具製造業)。

<先行き>

・5月には、生産調整に伴う休業は減少すると見込まれる(職業安定所)。

